



青空ちゃん (平成17年12月3日生)
両親／山口剛・美佳さん〔二〕
「僕は女の人を見ると笑いがける。女好き!? でもパパママが一番スキ。」



実優ちゃん (平成17年10月10日生)
両親／遠藤隆寛・紀子さん〔二〕
「フ〜〜」



美久ちゃん・聡一郎ちゃん
(平成12年10月9日・平成13年10月17日生)
両親／高橋聡・幸子さん〔鎌数〕
「いつまでも仲良しでいようね!」

すこやかちゃんを募集しています

掲載ご希望の方は、秘書広報課広報広聴班（〒289-2595旭市二の1920・☎62-8070）へ。
対象は、小学校入学前の幼児です。申込用紙は、保健センター、海上保健センター、飯岡保健センター、干潟保健センター、秘書広報課にあります。



紙上展示室―旭モノ語り―第十二回 薬の看板

旭市が誇る「医療の殿堂」といえば、診療圏人口百万人をおかえる旭中央病院ですが、その広い敷地の中に資料館があるのをご存じでしょうか。展示内容は多岐にわたります。病院のあゆみにはじまり、ユニークな医療器具、医学の先人たちの書画、地域の歴史、そして病院の初代院長である諸橋芳夫氏のコレクション等で構成されています。その展示室の中でも、ひととき目を引くのが薬の看板が並ぶ一角です。

かつて薬屋の店先や屋内に掲げられたもので、江戸時代から昭和にかけて使われていました。看板には薬名だけでなく、薬の効能を書いているもの、店の名を入れているものもあります。薬名を書いた看板は人目を引きます。薬の宣伝だけでなく、店の経営規模を象徴し、イメージを左右する、大切な経営戦略のひとつでもあったのです。

鬼の形をした「はらいたのくすり」は『熊膽木香丸』、ずばり熊の胆が成分です。縦長に金文字の『一角丸』は小児用の薬で、東金の豪商大野傳兵衛が江戸末期に売り出したまさに看板商品。ヒゲにシルクハットの紳士が描かれている丸型の看板『胃活』は、明治



三十二年発売で食べすぎ飲みすぎに。婦人病に効く『中将湯』は、現在の(株)ツムラの礎を築いた漢方薬で、明治二十六年発売以来の超ロングセラー商品なのだから。『六神丸』は古くからある漢方薬のひとつで、何にでも効く万能薬として、現在も『△△六神丸』など同系統のものが百種近くあるそうです。

レトロな味わいのある古い看板は近ごろ人気が高く、複製も作られています。病院を訪れた際にぜひお立ち寄りを。場所は看護専門学校東側です。開館時間は午前9時から午後3時まで、入館は無料です。問い合わせは、旭中央病院資料館（☎63-8111）へ。
〔大原幽学記念館 猪野映里子〕

暮らしのカレンダー

- 15日(土) 矢指ヶ浦・飯岡海水浴場オープン
(～8月20日(日))
ミスセタコンテスト (13:30～東総文化会館)
- 17日(月) 海の日
- 21日(金) 飯岡海浜プールオープン (～8月20日(日))
- 22日(土) サマーフェスタ in 矢指ヶ浦 2006
(9:30～ 矢指ヶ浦海水浴場)
- 29日(土) いいおかYOU・遊フェスティバル 2006
(～30日(日) 飯岡海岸ほか)

編集後記

今月からタバコが値上げです。上がる額は1箱あたり20円～30円。愛煙家にとっては非常に厳しいものがあります。かくいう私も愛煙家の一人です。小遣いが少なくなるのは辛いのですが、この程度の値上げでは止めようとは思いません。きつと、その辺の微妙な心理を考えた額なのではないでしょうか。では、いくらになつたら止めるのか、自問してみました。五百円になつたら…。こんな考えでは、タバコを止めるどころか、高い税金をずっと払い続けることになりそうです。(い)